



JAPAN  
MARROW  
DONOR  
PROGRAM

## 緊急安全情報

2003 年 8 月 18 日

(財) 骨髄移植推進財団  
認定施設採取責任医師 各位

財団法人 骨髄移植推進財団  
ドナー安全委員会

### 骨髄採取後、肺脂肪塞栓症が疑われた事例

このたび、骨髄採取後に肺脂肪塞栓症と疑われた事例が報告されました。  
採取施設からの報告によれば以下のような概要です。

ドナー情報：身長: 173cm 体重: 71Kg 年齢: 30 歳代 男性

#### 【発生状況】

骨髄採取終了後、麻酔覚醒直後より SpO<sub>2</sub> が 82% に低下したため、face mask による酸素吸入を行い胸部レントゲン写真と CT 写真を撮影しました。

胸部単純 X-P では瀰漫性の浸潤陰影が、CT 写真では微小で散布性の high density lesions が認められました。ともに両側性で、上肺野にやや強い傾向があったとのことでした。

採取病院の主治医は肺塞栓症を疑い、酸素吸入、ステロイド、低分子ヘパリンなどの治療を開始しました。翌日には X-P 上での肺陰影減少、SpO<sub>2</sub> の改善などが認められ、翌々日には酸素吸入も中止となっていますが、ステロイドや低分子ヘパリンなどの治療を継続中であり、しばらくの入院治療が必要と考えられます。

#### 【原因】

現時点では肺脂肪塞栓症であるとの確定診断ができておらず、肺脂肪塞栓症のほか ARDS の可能性も含めて原因を特定できていません。文献上、自家骨髄採取の際に脂肪塞栓症を合併したという報告がありますが (Bone Marrow Transplantation, 7 : 485-6, 1991) ARDS の報告はないと思われます。

上記の脂肪塞栓症の報告では、「13G の採取針に問題があるのではないかと推論していますが、その後の報告事例がなく、真の原因は不明です。

(なお、今回の採取でも 13G の針が使用されていました。)

**【骨髄採取施設へのお願い】**

今回の事例は極めて稀な合併症と考えられますが、麻酔中や覚醒後に酸素飽和度の持続性低下を認めるような場合には、胸部 X-P 写真、肺 CT 写真、動脈血ガス分析、血中の各種脂肪成分と関連酵素の測定などを実施していただきますようお願いいたします。

また、これまでに同様にご経験をお持ちの先生は財団事務局までご連絡をお願いいたします。

以上ご報告申し上げます。

財団法人骨髄移植推進財団  
ドナー安全委員会  
(事務局 担当:折原)  
〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町 3-19  
廣瀬第2ビル 7階  
TEL 03-5280-2200  
FAX 03-5283-5629  
E-mail:orihara@jmdp.or.jp